

かとう学園 第1回学園運営協議会 議事録

1 開会行事【進行：事務局 高田学園Co.】

(1) かとう学園挨拶

【河東小学校 校長 安河内 友美】

今年度、事務局を務める。コロナ禍の中、集まっていただきありがたい。高宮教育長にも来校いただいている。今年からコミュニティ・スクールになる。これまでも、地域と家庭が協力し、教育活動を行ってきたが、もう一度、思いや願いを共有していきたい。子どもたちの元気や幸せを増やし、地域の皆さんにも元気や幸せが広がってほしい。

(2) 教育委員会挨拶【宗像市教育委員会 教育長 高宮 史郎 様】

日頃から河東地区の活動に感謝する。学園目標「夢と志を持ち、自ら学び実践し力強く未来を切り拓く児童生徒の育成」とともに、地域の願いや目標から様々なことが行われている。通学路クリーンアップ作戦など環境保全活動が行われている。大変喜ばしい。これらの河東地区の活動に小中学生が関われば、立派なコミュニティ・スクールになる。皆様のご健勝を祈念している。

(3) 委員自己紹介、事務局自己紹介

各自

(4) 学園運営協議会委嘱状交付

代表を安部委員にお願いする。(教育長より委嘱状の交付)他の委員には、机上に配付。

(5) 会長及び副会長選出

会長及び副会長は、委員の互選により決めることとなっている。誰か立候補はいないか。いないので、事務局より提案する。会長に安部委員、副会長に大江委員を推薦する。承認(拍手)。前の席に移動。

2 議事【進行：安部会長】かとう学園を元気にしていきたい。協力をお願いしたい。

(1) かとう学園経営要綱マスタープランについて

【事務局：安河内】 各学校単位ではなく、中学校校区をひと単位として教育を行っている。そのために、学園共通の目標を立てて行っている。かとう学園の目指す児童生徒は「夢と志を持ち、自ら実践し力強く未来を切り拓く児童生徒」である。そして、自立、協働、創造の3つの柱がある。「自立」は、自分が持つ多様な個性を自ら伸ばす児童生徒のことである。具体的には、自分の良さを認識したり、自分の目標を持ち、目標に向かって創意工夫したりしながら努力することである。「協働」は、互いの強みを生かして、支え合い高め合う児童生徒の育成である。具体的には、他者の良さを認識し、尊重したり、進んで人と関わ

り、知恵を出し合いながら問題を解決したりすることである。「創造」は、責任を持った判断や選択を行い、意味や価値を生み出す児童生徒のことである。具体的には、自分も他者も納得できる「納得解」を追究したり、自分や他者に責任を持った判断や選択をしたりすることである。それを支えるのが、周りの環境である。大人の姿も自立、協働、創造に向かってほしいと考える。本年度の重点は、「自己調整能力」「対話(協働)力」である。そのために、大事にしたいのは、自己決定すること。そのためのキーワードは、「描く」「つながる」「創り出す」である。そして、学校のバージョンアップをねらう。「開かれた教育課程」のために地域の「ひと・もの・こと」を生かしてしていきたい。昨年度の学校評価アンケートの結果は、「協働」の評価は高かった。しかし、「自立」と「創造」は8割に満たない。かとう学園サミット、バックヤードツアー、クリーンアップ作戦、ドリカム講座などを今年度も実施し、児童生徒が、地域で活躍したり、夢やあこがれを抱いたりするようになってほしい。

【安部会長】

ご質問、ご意見はないか。マスタープランについて承認されるか。承認(拍手)

(2) かとう学園運営協議会の組織及び年間計画について

【事務局：平山】年間6回を計画している。2回目は、どんな子供の姿を期待するか、方向性を決める熟議をしていきたい。3回目は、中学校の授業を参観し、生徒と協議をする場の設定を検討している。4回目は、次年度の計画等を話し合っていく予定にしている。(承認)

(3) 熟議

「かとう学園の子どもたちの現状」～学校・家庭・地域での子どもたちの実態を共有する～

①グループ協議

②各グループからの報告

【Aグループ(地域)】

地域の夏祭りなどの行事に関わってもらっていた。これからは、自分たちでどうしたいか、子どもたちが考えて実行できるように進めていきたい。子どもたちから意見が出れば、地域や保護者も協力しやすくなる。

【Bグループ(地域)】

コロナ禍で子供との接点が少ないことは残念だが、そのような中でも、挨拶はよくできている。子供から、何かしらのコミュニケーションを取ってくれるのが嬉しい。「昔と今では変わっているところはないか？」とたずねたところ、やんちゃな子が少ない。穏やかな子が多い。裏返すと自己主張が少ないと言えるのではないか。意思の強さを高めることができた

らよいのではないか。地域の私達が、ボランティアに取り組んでいるが、手応えを感じたい気持ちもある。

【Cグループ(家庭)】

優しい子が多い、公園で遊ぶ子が多くなった反面、きめられた役割は果たせるが、自分にできることを考えて行動するのは弱い。情報収集能力が高く、夢や目標をもっている子が多いが計画性は弱い。宗像の歴史を知らない。

【Dグループ(家庭)】

子供が友達や地域との関わりがある中、保護者が関わっていないと感じる。知らないことが多い。小学校の運動会や中学校の体育祭で、子どもたちが頑張っているところを見た。今まで以上の力を発揮していた。これから、子どもたちとの関わりもっていききたい。

③まとめ

【坂井委員】これからの社会は、「予測不可能」と言われる。子どもたちは、そんな時代をたくましく生きていかないといけない。我々が受けてきた教育とは違う。教えてもらわなくても自分で学んでいかないといけない。新しい価値観に応じた学校教育が必要。自己調整、対話は大人になってすごく大切な力である。社会に出てたくましく生きていく力を、学校でつけないといけない時代である。学校側は、教育用語を使わずに、皆さんがわかるように言い直すともっといい。10月に河東中の参観があるので、子供の今をしっかりと見て、学園の目指す姿を見つけていく。理念に子供を近づけようとすると苦しい。そうではなく、子どもたちの良さをたくさん見つけていく学園運営協議会にしていきたい。「一人にもなれる、一つにもなれる」そんなたくましい子どもをみなさんと育てていきたい。学校が明るい、あいさつがある、明るい話題が多い地域だと思う。学校を利用して地域のブランド力を高めていく。学校は、校区全体を学習の場として、児童生徒が活躍する場を設けていくと、学校力も伸びていく。

3 閉会行事【進行：高田Co.】

(1) 諸連絡

【事務局：森】次回は、6月29日(水)18:30ー主要内容としては、評価の項目を提示していきたい。今回の熟議を踏まえ、どんなことが必要なのかを議論していきたい。

(2) かつう学園挨拶【河東西小学校 校長 網谷 美佐子】

未来を切り拓いていく子供を、みんなで育てていく。学校にも限界があり、地域の力を借りていきたい。地域の活動は、自由が大きい。そんな場で子供は育つ。愛情たっぷりの辛口の応援団になってほしい。本音で話し合っ、子どもたちに本物の力をつけていきたい。